

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和5年度農作物病害虫発生予察情報について

令和5年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病害虫発生予報第4号

令和5年6月20日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.2%、発病度が0.0)。

(2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.5%、発病株率が0.0%)。

(2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(3.1%)に比べて高いが、株当たり虫数は0.0頭と、平年(0.0頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 箱施薬殺虫剤は、施用後約2か月でその効力はほぼ消失する。
- (2) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.2%、発病度が0.1)。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.7%、株当たり虫数が0.0頭)。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

II. 果樹

カンキツ

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬のスダチの巡回調査では、発生圃場率が87.5%と、平年(78.3%)並の発生であるが、発病度が3.9と、平年(1.6)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 常発園では必ず防除を行う。
- (2) ミカンハモグリガなどの害虫の食害痕は病原細菌の侵入門戸となるので、ミカンハモグリガの駆除に努める。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が7.6%と、平年(51.7%、6.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

- (2) 葉裏まで十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病原菌は25℃以上では発生が抑制されるが、降雨が多いと感染が拡大するため、引き続き薬剤による防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.3%、寄生葉率が1.2%)。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏や徒長枝にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第1半旬から6月第3半旬の予察灯調査において、勝浦町及び上板町の誘殺数は、各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している(表1)。
- (2) 高松地方気象台が6月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
5	1	1	2	28	1	29	32
	2	2	10	24	3	171	19
	3	0	2	64	1	71	49
	4	0	0	93	5	17	40
	5	0	0	37	1	26	20
	6	2	0	49	2	139	35
6	1	2	0	34	0	15	13
	2	0	0	94	0	11	16
	3	2	0	58	0	11	15
	4		0	72		49	8

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
5	1	0	17	10	5	22	7
	2	5	38	11	3	166	6
	3	0	6	19	1	239	12
	4	0	3	28	2	16	10
	5	0	3	15	0	21	12
	6	0	1	27	2	70	17
6	1	0	0	7	0	9	7
	2	0	0	7	1	22	6
	3	0	1	12	3	6	5
	4		0	10		79	7

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。